

★ 低温・強風の影響で生育が抑えられたほ場も！
★ 適切な茎数を確保し、中干しの適期実施を！

1 君津地域の生育概況

移植後は 4 月下旬の低温と強風の影響で初期生育が抑えられ、葉齢の進みはやや遅い傾向となりました。草丈は平年並みでしたが、茎数は全体として少なめに推移し、一部で茎数不足のほ場がありました。今後も浅水管理で茎数を確保しましょう。

一方で、調査日 5 月 19 日以降の茎数は順調に増加しているため、次回調査日の 6 月 1 日では平年並の調査結果が予想されます。調査日以降は気温が高めに推移していますので、茎数確保したほ場は、茎数過剰になる前に中干しを開始しましょう。

2 生育調査ほの調査結果（5 月 19 日）

品種	年	田植え日	葉令	草丈(cm)	茎数(/株)	茎数 (/㎡)
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	29	4/17	7.2	27	11.1	165
	平年	4/16	7.2	25.5	13.1	196
	平年比	+1	±0	106%	85%	84%
ふさこがね (君津市) ※2	29	4/20	5.6	26	7.2	103
	平年	4/19	6.4	24.1	10.8	206
	平年比	+1	-0.8	108%	67%	50%
コシヒカリ (君津市) ※2	29	4/16	6.0	31	11.7	172
	平年	4/20	6.4	29.2	13.9	266
	平年比	-4	-0.4	106%	84%	65%
コシヒカリ (木更津市)	29	4/29	5.2	29	6.3	118
	昨年	5/1	5.4	27	5.6	93

※1 平年値は過去 10 年（2007～2016 年）平均値。ただし、木更津市のほ場は 26 年から調査を始めたため、平年値はなし。

※2 29 年の君津市ふさこがね及びコシヒカリは一発肥料を施用している。

-郵便で配信している方へお願い-

稲作情報の配信を郵便から、電子メールまたはFAXに切り替えを進めています。
電子メール・FAXをお使いの方は、下記までご連絡ください。
連絡先 青木 y.aoki31@pref.chiba.lg.jp 0438-23-0299 (電話)

3 これからの管理のポイント

① ほ場ごとに茎数を確認し、中干しの適期実施

茎数過多は玄米品質低下の原因となるので、表1の中干し開始時期の目安を確認し、目標茎数に達し次第、中干しを開始して過剰分けつの発生を抑えましょう。特に、「コシヒカリ」は倒伏を回避するため、中干しは適期に実施しましょう。

目標茎数に達していないほ場では、引き続き浅水管理で茎数確保を図る必要があります。一方、今後好天が続く場合、茎数が急激に増加するので、中干しが遅れないように注意しましょう。

中干しの強さは田面に亀裂が入り、田面を歩いても長靴が沈まない位を目安とします。乾きにくいほ場では中干し開始数日後に溝切りを行うと効果的です。

表1 品種別の中干し開始時期の目安

品種	植付時期	中干し開始目標茎数		
		砂質土	壤質土	粘質土
ふさおとめ	4月20日	480本/㎡ (27本/株)	480本/㎡ (27本/株)	440本/㎡ (24本/株)
ふさこがね	4月20日	360本/㎡ (20本/株)	360本/㎡ (20本/株)	360本/㎡ (20本/株)
コシヒカリ	4月20日	320本/㎡	310本/㎡	300本/㎡
	5月1日	(18本/株)	(17本/株)	(16本/株)

※ () 内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安

※極端な疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがあります

② ばか苗病の発生・対策について

昨年に引き続き「ばか苗病」の発生が散見されます。「ばか苗病」が種子生産ほ場及びその周辺ほ場で発生すると種子として出荷できなくなります。

千葉県内の種子生産ほ場の半分以上は君津地域に存在します。県産優良種子安定生産のためにも、「ばか苗病」を本田で確認した際には抜き取りへの御協力をお願いします。

③ 「漏生イネ」と「ヒエ」の見間違いに注意

今年は、前年の収穫作業時のこぼれ籾から発生した「漏生イネ」が多く見られます。この「漏生イネ」はヒエ等の雑草とは異なりますが、ヒエと混同して除草剤を散布する事例が一部あります。今作で可能な対策は、発生株の抜き取りのみとなります。

品種を切り替えた場合には、異品種混入防止のため、漏生イネ対策の徹底をお願いします。

④ ヒメトビウンカ対策

君津地域においては、昨年までは大きな減収となる被害は発生していませんが、各地でイネ縞葉枯病の症状と見られる株が確認されました。

対策としては、水稻生育初期の飛来成虫によるウイルス感染と、次世代幼虫による周辺株への感染拡大を防止が重要です。5月下旬～6月上旬頃のヒメトビウンカの飛来状況によっては、本田防除を実施しましょう。

※ 次号は「6月8日頃」発行予定